それはある春の日のことでした。

シエン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
それはある春の日のことでした。

【Ｎコード】
Ｎ０１９０Ｅ

【作者名】
シエン

【あらすじ】
失ったものが大切であればあるほど、そのあとの絶望は計り知れなかった。

（前書き）

文章、下手なんでそこんとこはご了承下さい。

出逢いがあるから別れがある。出逢わなければ別れることはなかった。

……でも、出逢わなければあの幸せは訪れなかった。

失われた時間、そして大切な人。

もう訪れることのないあの幸福。

この暗い部屋に残されたのはあの人がよく座っていた椅子。そこに優しかったあの人の姿はもうない。

椅子に座り空を見る。太陽の光が僕を照らす。

……あっそうかもう、いないんだ。

疑いようのない真実。紛れようのない現実。突きつけられる絶望。

すべて夢じゃない。……けど誰か夢だといって。これが全て悪い夢だと。

目が覚めたら、いつも通りキッチンで朝食を作っていて、起きてくると『おはよう』ってにこやかに微笑んでくれて、いっしょにごはんを食べて、その後にいっしょに遊園地に行って、そして、そして……わかっているよ、もう。わかっている。わかってるよ。けど、わかりたくなんかない。わかりたくなんかないんだ。嫌だ、嫌だ、嫌だ、嫌だ、嫌だ、嫌だ、嫌だ、嫌だ、嫌なんだよ。考えたくないよ、もぅ。

目を閉じるとあの人の笑顔がよみがえる。

いつも横で微笑んでくれる。

いつもいっしょだったんだ。

それなのに突然。突然……いなくなった。

ぼくは、眠ることにする。

目が覚めたら彼女がぼくの横で《おはよう》と微笑んでくれることを願って。

彼女がいなくなってもそれでも明日はやってくる。それが如何に残酷なことか、あなたにそれがわかりますか？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0190e/

それはある春の日のことでした。

2010年10月9日09時52分発行